

刊行の辞

本学の教職課程には、これまで年度毎の教職課程履修登録者数、教員免許取得者数、教員採用者数、教育実習派遣者数といった基本的な統計や、教職課程としての取り組みなどの記録を残すための冊子も、教職課程の教育に関わる教員が、教育や教職に関する研究成果を発表するための研究集録もありませんでした。前者に関しては、今日幅広い情報公開が求められており、教職課程に関しても例外ではなく、記録集の作成、公開が強く求められる状況にあります。後者に関しても、本学では、各学部の研究目的に関わる研究集録は刊行されているものの、教職科目を担当している専任教員や非常勤講師の方々にとっては、所属学部の関係で投稿できない、あるいは研究集録の目的が自身の研究分野と異なるため投稿できないといったことが多々ありました。文部科学省は、教職科目を担当する教員には、その担当科目に関わる業績を刊行していることを求めています。そのためというわけではなく、教育に携わるものが、自らが担当する科目に関して、不断に研究を積み重ね、研鑽を積んでいくことは当然の責務であり、そのための発表の場を提供することが求められています。

そこで、本学の教職課程では、その目的に合致する紀要として『駿河台大学教職論集』を刊行することとなりました。予算と時間の制約から、記録集や研究集録としては不十分なものではありますが、刊行にこぎつけることができたことは、少しの前進と考えます。本学の教職科目をご担当いただいている、専任教員および非常勤講師の先生方におかれましては、この『駿河台大学教職論集』を、日頃の教育に関する研究成果を発表する場として、あるいは日頃の教育実践を振り返り、分析し、理論的基礎付けをした実践録を発表する場として、活用していただきたいと思います。なお、本論集は、駿河台大学学術情報リポジトリにて公開されることとなります。

最後に、本論集の刊行にご尽力いただいた方々に心より御礼申し上げますとともに、本論集が今後ますます充実したものになっていくことを祈念しております。

2015年12月

『駿河台大学教職論集』編集委員 吉住 知文